

## 審議会等の会議の記録

会議の名称	令和7年度第2回伊勢崎市子ども・子育て会議
開催日時	令和8年2月4日(水) 午前10時00分から午前11時00分まで
開催場所	市役所東館3階 災害対策室
出席者氏名	<p><b>【委員】</b> 平林委員、齊藤委員、櫻井委員、鈴木委員、町田委員、関根委員、柳澤委員、新井委員、本多委員、小暮委員、佐野委員、監物委員、織田委員、水谷委員、清水委員、西川委員、長沼委員</p> <p><b>【関係者】</b> 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 まちづくりプランナー 野口 志朗</p> <p><b>【市職員出席者】</b> 井田福祉こども部長、山本福祉こども部副部長、森村子育て支援課長、諏訪課長補佐、岡本係長、谷主査 保健センター 須永係長、南雲係長 こども家庭センター 井上係長 こども保育課 工藤係長、角田係長、細野係長 学校教育課 勝田課長補佐 学務課 国定係長 生涯学習課 川田課長補佐</p>
傍聴人数	0人(公開)
会議の議題	<p>(1) 第2期伊勢崎市子ども・子育て支援事業計画に関する報告事項について</p> <p>(2) 第3期伊勢崎市子ども・子育て支援事業計画に関する協議事項について</p> <p>(3) こども計画に関する事項について</p>
会議資料の内容	<p>資料1 第2期子ども・子育て支援事業計画(地域子ども・子育て支援事業等)の実績</p> <p>資料2 小児救急医療の充実について</p> <p>資料3 令和8年度伊勢崎市立幼稚園入園希望者状況</p> <p>資料4 特定教育・保育施設の利用定員の設定について</p> <p>資料5 少子化の進行に伴う、定員割れ施設における定員削減について</p> <p>資料6 (仮称)伊勢崎市こども計画について</p>

会議における  
議事の経過  
及び発言の要旨

会議の経過は以下のとおり

《 1. 開 会 》

(事務局) 開会及び会議の出席者の報告

《 2. 挨拶 》

(会長) 挨拶

《 3. 議 事 》

(1) 第2期伊勢崎市子ども・子育て支援事業計画に関する報告事項について

(事務局) 資料1～3について説明

(会長)

計画の中で施設数や実施回数について触れていたが、現状としてまかなえているということか。

(事務局)

市全体の個々の事業について量の確保をするというなかで実績を報告してもらったが、目標値と差異が無いものとして事務局としては概ね達成していると受け止めている。

(委員)

「資料3 令和8年度伊勢崎市立幼稚園入園希望者状況」について、少子化という現状を踏まえると希望者は右肩下がりになっていくのか。

(事務局)

少子化の全体的な影響というところで言うと伊勢崎市も少子化の影響は免れない。市の総合計画でも少子高齢化対策を課題として挙げているので全体的に少子化の傾向が続いていくと言える。

(2) 第3期伊勢崎市子ども・子育て支援事業計画に関する協議事項について

(事務局) 資料4について説明

(担当課) 資料5について説明

(委員)

少子化に伴う施設の定員減について説明があったが、そもそも制度上定員減は認められていて他市町村は柔軟に対応している。しかし、伊勢崎市では待機児童を作らないという思いから今まで認めてこなかった。今は園児が少なくなって運営が大変な園が多くなっているので、そこについては経営的な話というよりも働いている先生に十分な処遇を与えることで保育の質を担保していくことに加え、それに伴う安全を十分に確保するために相応の職員

配置をする必要がある。

なので、柔軟に検討していただいて定員減を認めていただきたい。ひいてはそれが子どもたちの安全や保育の質に繋がっていくと思うので検討を加速してほしい。

(会長)

他の市町村は柔軟に対応しているのか。

(委員)

制度上は定員の増減について認められており、以前も発言したが太田市や前橋市も定員減を認めている。全国的に待機児童問題が一服した影響もあり少子化の影響で地方に行けば行くほど子どもの数が減っているのが顕著である。そういったところで柔軟に対応していくというのがこども家庭庁の方針で出ており、全日本私立幼稚園連合会の方からも同様の情報提供があった。

全国的にそういった流れになっているので、柔軟に対応していただいたほうが良いと思う。

(委員)

単価と人数の関係は大きく、市や県のズルいところだが子どもが大勢いる時、例えば定員が100人のところで120人を2年間続けると定員を上げると言われるが定員減についてはそういった基準は無いので困っている。単価を下げるために5、6年前から定員を上げ続けてきた園もあるので、定員割れが何%だったかどうかのくらい減らすのか考えてもらわないと保育園でやってる人は大変。

うちは今115人いるが始めた当初は60人定員でやっていた。単価の話で前の園長は人が増えて90人定員に上げてくれと言われた時に単価がかなり下がるので60人定員の頃が良かったと言っていた。それだけ単価によって金額が変わってくることを認識していただいて定員割れが2、3年続くようなら定員を削減して、人が増えるようならまた定員を増やすといったように柔軟性を持たせて考えた方が良いのではないかな。

(会長)

今は基準が無いということか。

(委員)

下げる方は無い。他の市と比べると伸びてきた方だがここ1、2年は定員ギリギリでやっているなので柔軟にやった方がいいのではないかな。でないと園の方も追い込まれると思う。

(会長)

私も大学で保育士を養成しているが、質の高い保育をしてほしいなおかつ保育士の給料が少ないと社会的に言われている中で保育士になりたいという人が減っているのかなと感じているので皆さんの処遇を改善することで保育の質も上げられると思う。

定員に関してはこのような会議で皆様と検討していきたい。

(委員)

経営の方にダイレクトに響いてくるという話だが人数が多い時

は良かったが少子化になってくると定員割れが起き、内部で消化できない。この点については経営を圧迫するような状況を助長する形は避けなければならない。そうだとすれば延命を第一に救済的な措置を考えたほうが良いと思う。

(会長)

予算も限られているとは思いますが、園の経営についても行政と園で協力して運営していくことが子どもを守る事にも繋がるので市には改めてお願いしたい。

定員削減の話があったが、伊勢崎市では第1子と第2子で保育園が異なるといったような状況は起きていないか。

(担当課)

会長が述べられた状況は近年では多少発生している。親の都合や、下の子の月齢に合った保育園が空いていない場合などの状況で別々になることもあるが、転園を希望されて定員に空きがある場合には入所を受け入れるなど柔軟に対応をしている。

(会長)

未満児や乳児の場合、希望されるなら別だが同じ園の方が保護者からすれば送り迎えなどで負担にならないと思う。

定員削減はもちろん考えていかななくてはならないが第1子と第2子を別々に送迎するのは非常に不便なのでその辺りを考慮してほしい。

(委員)

定員について何歳児が何名という決まりはない。私の保育園なら定員は115人だが保育園の考え方で何歳児を何名入所させても構わない。

(担当課)

定員を越えて入所させても基本的には問題はないがクラスの広さや先生の考え方で1歳児のクラスが10人定員のところ13人来たら3人は2歳児のクラスに入ってもらうなどの工夫は園の方にしてもらっていて柔軟に対応している。そこで難しければ入所できないといったこともあるが現状は対応できている。

(委員)

兄弟が別々の園に通わなくてはならなくなるという話があったが、基本的には伊勢崎市も兄弟児を優先するという事で今までやってきている。なので、なにかの事情が無い限りは基本的には同じ施設に通っていると思う。ただ、別々に入所させたいと希望する人もいるし、何歳から入所できるかという各保育園の設定によっては入所出来ないこともある。今までは育休をとっていたり、働き方が急に変わる等で保護者の状況が変わることでもそういった事にもなるのかと思う。

以前のように保育事情が逼迫していて待機児童が続出しているという状況だったらあったかもしれないが、今の少子化の現状では発生しにくいのかと思う

(会長)  
実際にはそんなにいないということか。

(委員)  
はい。

(担当課)  
定員の調整について基本的には第3期子ども・子育て支援事業計画を基準として行うものと認識している。先ほどの発言のとおり少子化が進んでいるので計画では令和10年度から定員を減らしていくという記載があるが、少子化の進行等、定員割れの状況を鑑み定員の削減について早急に検討して早めに対応したい。

(会長)  
情報を共有しつつ委員の皆様と協議しながら色々と進めていきたい。

### (3) こども計画に関する事項について

(事務局) 資料6について説明

(会長)  
県から市への計画の移行ということか。

(事務局)  
基本的には国のこども大綱と県のこども計画、群馬こどもビジョン2025が県から出ているのでそれらを参考にしつつ市の素案を作っていくたい。

(会長)  
こども計画は令和9年度から令和11年度までで、策定にあたっては子ども・子育て会議で審議するということか。

(事務局)  
はい。来年度以降はこの場を借りて審議していただくことになる。

### 《 4. その他 》

(事務局)  
年度の切り替えで役員改選等を予定している団体は、4月以降の後任の委員を選出していただくこととなる。

委員の改選に関しての通知文は後日発送するが、市の関係課等を通じて、各団体から委員の推薦書を提出していただくこととなる。

次回の会議は6月～7月頃の開催を予定している。

なお、正式な開催通知は後日送付する。

### 《 5. 閉 会 》